裏切り者検知と自閉症スペクトラム指数の関連

○森 久美子

(関西学院大学社会学部)

キーワード: Wason 選択課題、自閉症スペクトラム指数(AQ)、社会的契約仮説

Cheater detection and the Autism-Spectrum Quotient

Kumiko MORI

(Kwansei Gakuin University)

Key words: Wason selection task, Autism-Spectrum Quotient (AQ), Social contract hypothesis

目 的

Wason 選択課題の文脈効果に対する説明として、社会的契約仮説(Cosmides, 1989)がある。社会的契約の文脈下で課題の正答率が上昇するのは、人が、「利得に対しては対価を支払う」という社会的契約における裏切り者検知能力を進化させているためだとされる。社会的交換を恙無く行うことは人にとっての適応課題の一つであり、これを解決するために、裏切り者を敏感に検知する能力が進化したと考えられている。

一方、森・行廣(2008)は、心の理論が未発達とされる自閉症スペクトラム(ASD)児における分配行動について検討した。ASD 児では心の理論の未発達を社会的学習が補うと考えられ、社会的学習機会の多い規範的行動(平等分配)は年齢とともに増えるが、学習機会の乏しい規範逸脱者への報復行動(不平等拒否)は生じにくいことが示された。

この結果から、ASD では規範逸脱への自動的注意や敏感さが未発達となっている可能性が示唆された。この点について明らかにすることは、人間社会における規範形成を支える心理的基盤を知ることにつながる。そこで、裏切り者検知能力を反映するとされる社会的契約文脈下での Wason 選択課題を用いて、自閉症傾向との関連を検討することにした。本報告では、ASD 群と対照群との比較のための予備研究として、大学生を対象に、自閉症スペクトラム指数(AQ)と裏切り者検知能力の関連を検討した結果について述べる。

方 法

参加者 大学生 53 名が参加し、このうち Wason 選択課題を「知っている」「見たことがある」とした 11 名を除く 42 名が分析対象となった(男性 21 名、女性 21 名、年齢 19-21 歳)。実験課題 以下の 3 種類のルールを確認する Wason 選択課題を用いた。課題種類は被験者内要因であり、抽象課題を最初に実施し、予防課題と社会的契約課題の実施順序はカウンターバランスした。

抽象課題:「片面の数字が 3 なら、その反対の面のアルファベットは D である」

予防課題: (海辺にて)「水上オートバイに乗るなら、ライフジャケットを着用しなければならない」

社会的契約課題: (野菜無人販売所にて)「野菜を持ち帰るなら、料金箱に代金を入れなければならない」

手続き 測定は質問紙形式で集団実施した。3 種類の Wason 選択課題への回答後、50 項目からなる AQ 尺度(若林・東條・Baron-Cohen, 2004)に回答を求めた。

結 果

全回答者(53 名)での AQ 尺度得点の平均値は 21.29、標準偏差は 6.13 であった。若林ら(2004)で臨床域とされる 33 点以上の回答者は 2 名のみであったため、平均値±1SD を区切りとして 3 群に分割し、低群 10 名(11~15 点、男性 4 名)、中群

27 名(16~27 点、男性 13 名)、高群 5 名(28~35 点、男性 4 名)を比較した。

各課題における正答者率を図 1 に示す。課題ごとに群間の正答率を比較すると、抽象課題と予防課題では違いはみられず、社会的契約課題でのみ正答率が異なる傾向がみられた($p = .09$)。また、抽象課題を基準とした正答率の上昇を McNemar 検定により検定したところ、予防課題では AQ 中群でのみ($p = .06$)、社会的契約課題では AQ 低群($p = .06$)と中群($p < .001$)で正答率の上昇がみられた。AQ 高群ではこのような文脈による正答率の上昇は認められなかった。

図 1 AQ 群による各課題の正答者率の変化

考 察

本研究の結果は、AQ 高群において Wason 課題の文脈効果が、特に社会的契約課題において生じにくいことを示している。このことは、ASD において特に社会的契約場面における規範逸脱への自動的注意や敏感さが低い可能性を示唆する。

しかし、群間の差について明確な結論を述べるには、本研究での AQ 高群の人数は十分に多いとはいえない。また知能等の指標における群間差がこうした差異を生んでいる可能性も現時点では否定できない。こうした点に留意しつつ、今後の臨床群との比較研究につなげることが必要と考えられる。

引用文献

- ◆Cosmides, L. (1989). The logic of social exchange: Has natural selection shaped how humans reason? Studies with the Wason selection task. *Cognition*, 31, 187-276.
- ◆森久美子・行廣隆次 (2008). 心の理論と平等分配規範: 自閉症スペクトラム児における検討 日本社会心理学会 49 回発表論文集
- ◆若林明雄・東條吉邦, Baron-Cohen, S. Wheelwright, S. (2004). 自閉症スペクトラム指数 (AQ) 日本語版の標準化— 高機能臨床群と健常成人による検討—, *心理学研究*, 75, 78-84.